受理番号	陳情第２９号
件　　名	「広島市こども文化科学館・こども図書館のリニューアル計画」の再検討を求めることについて
要　　旨	こども文化科学館は、施設の耐震及び長寿命化を図るための改修工事と展示内容のリニューアルが予定されている。当初案では、併設するこども図書館が中央図書館と共にエールエールＡ館に移転し、青少年センターの機能を入れる計画であったが、その後、こども図書館は移転せず、床面積も現状維持となることが決まった。それらを踏まえ、こども文化科学館の「創作室」を青少年センターの「音楽室」とする計画であることなどが、２０２４（令和６）年２月に市民に示された。しかしこの計画案は、①「創作室」が無くなるなどこども文化科学館の事業スペースが大きく減少し、これまでのような教育普及事業が実施できなくなること、②１階のほとんどがこども図書館で占められるため、こども文化科学館入館時のワクワク感を来場者に伝えることができないことが大きな問題である。 こども文化科学館は常設展示・プラネタリウム事業と教室事業・企画展などの教育普及事業の二本柱で運営している。今後もこども文化科学館の設立理念が失われてしまわないよう、また、高額の市費をつぎ込んでリニューアルされる施設が、中途半端な活動しか提供できない雑居ビルにならないよう、下記の事項について連署をもって陳情する。 記 １　こども文化科学館の中に青少年センターの一部機能を移転しないこと。 ２　こども図書館とこども文化科学館の配置を現状維持とすること。 理由 １について ⑴　「創作室」、「実習室」、「工作室」が「実習室」の１室だけになり、教育普及事業が現在の４０％以下になる。 ア　幼児から大人向けに三つの部屋で行っている教育普及事業（創作教室、科学教室、たのしい工作室、クラブ活動など）

要　　旨	が「実習室」（理科室仕様）１室のみで行うことになる。試算では現在の４０％以下の事業しかできなくなる。 イ　「創作室」は工作機械（ボール盤、糸のこ盤など）を設置し、教室事業がないときにも展示品の製作・修理や教室事業で使用する材料の加工などで頻繁に使用している。「実習室」や共用の多目的室に工作機械は設置できず、教室事業や製作・修理に支障を来たす。 ウ　「実習室」の机を幼児から大人までの年代で共用することは困難で、特に子どもたちの作業の安全性が保てなくなる。 ⑵　３階展示スペースが狭くなり、これまで同様の企画展などが実施できない。 ３階に「音楽室」が設置されることで、現在ある３階展示スペースは通路幅程度になり、壁面を使った極小規模のパネル展示さえも難しい。企画展、科学の祭典などでは、現在の展示面積の約５３％程度しかとれず、これまで行っていたような規模のものは到底実施できない。 ⑶　「音楽室」が入ることで経費が増大する。 ア　３階に「音楽室」を設置すると、４階にプラネタリウムもあり、しっかりした防音工事が必要になる。「音楽室」を館内に設置するのであれば、既に防音可能な地下室利用を検討すべきである。 イ　閉館時間が１７時と２１時と異なるため、シャッターの設置など管理のための経費が増大する。 ２について ⑴　こども図書館全てが１階に配置される計画案では、入館時の印象は図書館の雰囲気が強くなり、こども文化科学館の設置テーマである「驚きや不思議」とはほど遠く、科学博物館としての魅力が乏しくなる。 ⑵　計画案では、１階の科学展示周辺は騒がしく、２階の子どもたちの足音が階下に響く。また、こども文化科学館を利用する学校等団体の到着時及び退館時には、雑然とした状態になることは避けられない。このため、図書館部分では落ち着いた雰囲気が作りにくい。さらに、「こども本の森」を南側に設置する計画もあり、現配置の方がつながりを取りやすい。 補記

要　　旨	1　こども文化科学館の開館当初について ⑴　建設当初の考え方について（関連１） 　建設当初は東京の「こどもの城」を参考にしていたが、オイルショックもありこども文化科学館全体のスペースを狭くした。そのため、演劇や音楽の練習場所は割愛せざるを得なかった。盛りだくさんになってどの分野も中途半端にならないように焦点化した基本方針で設計した。 　今回の計画案では、「音楽室」など青少年センターの一部機能が加わることで、「創作室」などのこども文化科学館のスペースがさらに縮小され、これまでのような教育普及事業ができなくなる。 ⑵　開館当初のコンセプトについて（関連２） 　当初のコンセプトは、こども図書館、こども文化科学館共に事務室のような管理スペースは１階に設けないで、子どもたちを含めた来館者に、第一印象で驚いてもらおうという当時としては斬新な構想だった。そしてそれが管理的ではなく子どもたちが自由に入ってこられる「こどもの城」としての良いイメージを与えてきている。だから、正面玄関を入った場所での展示、１階の吹き抜け部分の展示には科学への「驚きや不思議」の導入部分として特に重要視してきた。 　また、設計当初からこども図書館部分では落ち着いた静かな雰囲気が保てるように配慮していた。特にこども文化科学館部分では子どもたちが活発になり、足音や振動が階下に響かないように、こども図書館を南側の１階・２階に、こども文化科学館を北側の１階～４階と分けた設計となっている。さらに、こども図書館の屋上部分も騒音や振動を極力抑えるように特別な場合を除いて意図的に利用してこなかった。 　今回の計画案では、こども図書館の２階事務室が１階に降りることで、子どもたちを含めた来館者に、第一印象で驚いてもらうことがほとんど無くなってしまう。また、こども図書館では騒音や振動により静寂な雰囲気が壊されることが懸念される。さらに、「こども本の森」をこども図書館の南側に設置する計画もあり、現在のこども図書館配置の方が関連性を取りやすい。 ⑶　開館当初の注目点について（関連１、２） 　日本で初めての子どものための博物館として、多くの自治体から視察があった。延べ床面積が５，０００平方メートル以下

要　　旨	と全国的に見て決して広い部類の博物館とは言えないが、狭いながらも、展示ホール・プラネタリウム・ホール・実習室・創作室など種々の機能の完備、こども図書館との相乗効果、事務室の２階設置、教育普及事業の充実、手作りの企画展など、他の大型科学施設にも劣らない利点が注目されて全国各地に取り入れられていったという波及効果が見られる。 ２　企画展、科学の祭典の現状について（関連１⑵） 企画展、科学の祭典などは子どもたちにとって人気があるばかりではなく、特に科学の祭典は地元電力会社の声掛けで始まった事業で、今では多くの地元企業の応援の下、小中高大の教師やＯＢも企画運営し、参加する子どもたちだけでなく教える側の資質向上にも寄与している。現在、科学の祭典は、主に３階の展示ホール、創作室、実習室、工作室、１階展示ホール、更にこども文化科学館前の公園も利用している。また、実物展示、模型展示、実演スペース、工作スペースは場を取り現在でもかなり密集し、大混雑状態となっている。 今回の計画案では「音楽室」の面積を増やすため３階の展示ホールが通路幅程度に縮小され、科学の祭典のみならず企画展の実施も困難で、実施したとしても極めて簡易なものに制限されて魅力的なイベントは展開できない。そのため、入館者の満足度はかなり低くなりリピーターの数は低下する。 ３　こども文化科学館の教育普及活動について（関連１） ⑴　教育普及活動の現状について こども文化科学館は、展示物やプラネタリウムによる「驚きと不思議」を感じることから始まり、次への「体験や学び」につなげる教育普及活動（科学教室、創作教室、たのしい工作室、企画展、クラブ活動など）をこれまで非常に重視して運営してきた。 今回の計画案では、「創作室」が「音楽室」に変わり利用可能な部屋が１室のみで各教室の活動日数を極端に縮小せざるを得ず、こども文化科学館の本来の目的を達成することは難しい。参加する子どもたちや市民の注目度や満足感が減少し、入館者数減となる可能性が極めて高い。 ⑵　広島少年少女発明クラブについて こども文化科学館には、三つのクラブがあるが、「創作室」を拠点に活動しているのが広島少年少女発明クラブである。こ

要　　旨	の発明クラブは、本市の経済観光局産業振興部ものづくり支援課や広島県発明協会、その他多数の企業と連携を図りながら活動を行っている。こども文化科学館の中でもクラブ員数は毎年６０～７０人と一番多く、年間継続回数も２４回と最多のクラブである。工作や発明に興味のある子たちが参集し、創造性を発揮しながらモノづくり活動を行っている。 　発明クラブ員が参加しているチャレンジ創造コンテスト（通称チャレコン）がある。このチャレコンは発明協会が主催し、毎年全国で５００～６００チームが参加し、地方大会で選抜された約６０チームが全国大会に進み、からくり工作のアイデアを競っている。広島少年少女発明クラブは、２０１４（平成２６）年に最高の賞である文部科学大臣賞、翌２０１５（平成２７）年には発明協会会長賞を受賞した実績がある。２０１４年に優勝した中学生３名は２０１６年に中国のハルピン市で行われた世界青少年発明工夫展に参加し作品を世界に紹介した。 　今年６月の議会答弁では、今後の「創作室」での活動は現こども図書館２階部分に計画されている共用の多目的室を利用することが述べられていた。しかし、現「創作室」の半分のスペースで、工作機械や工具を置くことすらできず、これまで行ってきた創作活動や発明クラブ活動などを継続することはできない。これまで広島の子どもたちが利用して楽しい経験を積み重ねてきたことを、今後も継続していただきたいと強く願う。 ４　政令都市の科学館比較（関連１） 　２０２２（令和４）年１０月の展示リニューアル検討委員会に出された資料「他都市の科学館事例　基礎情報」から算出すると、政令指定都市の科学館１５館の平均延べ床面積は９，１９７平方メートルで、こども文化科学館は４，６８３平方メートルである。平均の約半分の面積で１５館中現在１４番目とかなり狭い現状である。にもかかわらず利用者数は３７万人と８番目で、１平方メートル当たりの利用者数は３番目である。今回の計画案では、「音楽室」など青少年センターの一部機能が加わることで、科学博物館としての面積は更に狭くなる。 　また、中核市である福山市が、こども文化科学館同様の「子ども未来館」の建設を打ち上げているが、プラネタリウムは設置しないで延べ床面積は４，０００～５，５００平方メートルにすると発表された。展示スペース等で見ると、こども文化科学館より

要　　旨	も実質広くなることが想定される。 5　こども文化科学館の使命・ポジション（関連１） 　こども文化科学館は小さくても先進的な試みを行い、年間４０～５０万人の広島の子どもたちや市民に「驚き・夢・ロマン」を育んできている。これまで、こども文化科学館に通ってきた多くの子どもたちが天文学者や物理学者などになって活躍している現実がある。科学的な分野や文化的な分野で子どもたちに夢を与え、広島の人材育成を図るこども文化科学館の使命はますます重要になってきている。 　ＩＴ化が叫ばれる現在であるが、子どもたちにとって工作や実験などの手作業や実体験は非常に重要である。その理由は、①工作などを通じて、子どもたちは自分のアイデアを形にする方法を学ぶ。これにより、創造力や問題解決能力が養われる。②手作業は集中力を必要とし、完成までの過程で忍耐力も鍛えられる。③実際に手を動かして物を作る経験は、デジタル社会でも将来的に役立つ実践的な技能を身に付けることができる、からである。ＩＴや映像からでは得られない体験的な学習はますます重要になってきている。 　また　今後については中央公園内の公共施設の集約化により、平和公園とサッカースタジアム（“スポーツ・レクリエーションゾーン”）の中間に“こどもゾーン”があり、こども文化科学館・こども図書館がその中心に位置することになる。今でも県外や海外からの子どもたちや大人が入館しているが、今後更に増加することが見込まれる。今回長期的視点に立ってリニューアルすることで、今後も国内外で注目される施設となり、ひいては広島の子どもたちや市民に還元される施設となりえる。 6　市民意見募集結果、市議会の委員会報告から（関連１） ⑴　「広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想（案）に対する市民意見募集結果」に書かれている（青少年センターの移転等について）にある意見はどれももっともな意見ばかりである。 ・　こども文化科学館のスペースがリニューアル以前よりも狭くなるのはなぜか。「青少年センターの機能を拠点として残すため」としているが、全く理解できない。中央図書館が広島駅前のエールエールＡ館の８～１０階に行くようなので、青少年センターの機能は、その８階の青少年のフロアに移動

要　　旨	すべきである。その方がお互いにとってメリットがある。 中途半端なものにしてこの二つを同居させるのは反対である。 ・　建築から４０年以上経過した建物をリニューアルするだけで、機能充実や必要なスペースが確保できるだろうか。…途中略…さらに、青少年センターの機能まで入れてしまおうというのだから、行政に本当にこれまで以上に充実した施設にしようという気概があるのか疑ってしまう。内部で検討するだけでなく、管理者である広島市文化財団の関係者や利用者に意見を求めるべきであるなど。 　これに対して本市の考え方では、…三つの施設の特性や利用者の利便性等を踏まえ、ゾーニングや動線等について検討することにしており、これらの施設が連携して、より魅力のある施設となるよう検討を進めていきたいと考えていますと回答されている。 　この考えに戻って今一度各施設の事業運営まで含めて、耐震化工事による影響（床・壁面面積の縮小）も踏まえた上で、より魅力のある施設となるよう再検討願いたい。 ⑵　昨年３月の市議会で都市活性化対策特別委員会委員長から報告された中にも、以下の内容がある。 　一つ、こども図書館、こども文化科学館、青少年センターの三つの施設を集約することは無理があるので、こども図書館を単独の施設とすることなどを改めてしっかりと議論して方針を決めていただきたい。 　一つ、こども文化科学館については、青少年センターが移転してくることになっても、利用者へのサービスが低下しないようにしていただきたい。 　このように、三つの施設を集約することは無理があると多くの方に指摘されている。 ７　試算の根拠（関連１⑴、⑵） ⑴　試算　計画案での教育普及事業の実施見込み…約３８％に縮小 　１室で対応できる教室事業等の実施日数（年間） 　｛１１５日（土日祝の日数）＋２９日（夏期休業日数）｝ 　×１／２（準備・片付け等で使用できない割合）＝７２日 　…ａ 　現在の教室事業等の実施日数

要　　旨	１１６日（科学教室、創作教室、たのしい工作室、企画展示等）＋７５日（クラブ活動）＝１９１日…b 現在を基準にした実施割合 ７２日（ａ）÷１９１日（ｂ）×１００＝３７．７％ ⑵　試算　計画案での企画展面積の見込み…約５３％に縮小 ｛（２１４平方メートル－６４平方メートル）＋８４平方メートル｝÷（２１４平方メートル＋８４平方メートル＋８４平方メートル＋５８平方メートル）×１００＝５３．２％ ｛（３Ｆ展示ホール－音楽室拡張による減少分）＋実習室｝÷（３Ｆ展示ホール＋創作室＋実習室＋工作室）×１００＝企画展面積見込